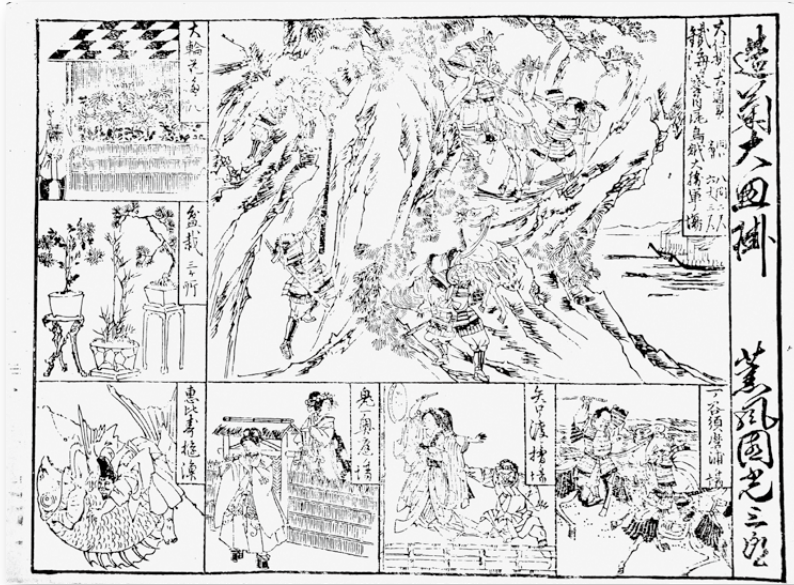


8月

〔收藏品紹介〕

菊人形興行の引札「造菊大廻掛」 〔薫風園光三郎発行、明治22年〕



引札「造菊大廻掛」(明治22年発行)

令和6年(2024)度、当館の收藏品に、明治時代の団子坂(現在の文京区千駄木)で人気を博した菊人形の興行に関する広告「引札(ひきふだ)」が加わりました。

団子坂は江戸時代以来、植木屋が集まる地域で、その植木屋の中から、後に大宮盆栽村(現在のさいたま市北区盆栽町)を切り開くこととなる盆栽専業の盆栽園が生まれました。団子坂は大宮盆栽村のルーツであり、引札は団子坂時代の盆栽園の様子を伝える貴重な資料です。

引札には、植木屋が取り扱っていた品や菊人形の題材が描かれ、菊人形興行の様子を知ることができます。明治22年(1889)に発行された「造菊大廻掛」を例に、菊人形興行の様子を覗いてみます。ちなみに、この引札を発行した薫風園の蔵石光三郎は、大宮盆栽村の開拓者の一人である蔵石篤夫の父です。

本引札では、源平合戦の場面「鉄海ヶ峯日尾鳥越大勝軍ノ場」が紙面の約半分を占めています。歌舞伎の演目の一場面と見られるこの菊人形は、間口8間2尺(約15m)、高さ6丈3尺(約20m)にも及ぶ「大仕掛ヶ大道員」であり、興行の目玉であったことがうかがえます。

そのほか、本引札には歌舞伎の演目をはじめとした菊人形4点、菊花壇を描く「大輪花だん三ヶ所」、松や竹、菊の盆栽を描く「盆栽三ヶ所」が表されています。団子坂では、菊人形とともに、菊花壇や盆栽、鉢植えが並んでいた様子が浮かんできます。

今回は引札を一例に、団子坂の菊人形興行の様子を垣間見ましたが、今後資料の収集・調査を継続し、盆栽園のルーツである団子坂の様子を明らかにしていこうと思えます。

(当館主任 立石見雪)